

実務経験のある教員等による授業科目

# シラバス

ミュージシャン学科

ボーカル専攻

授業科目		授業時数
アンサンブル		124
学年	学科	専攻
1	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
林 幸司 ギターリスト、バンドプロデューサーとしての豊富なバックバンド経験を 生かし、ボーカリストにアンサンブルのポイントを理解させていきます。		
前期		
到達目標		
●概要、及び指導内容に準ずる理解力と実践力の達成		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト(その他)		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	ガイダンス、バンド編成の各楽器の特性の解説、課題曲アンサンブル指導についての心構え	
2	●教室設備について解説 ●楽譜作成について ●バンド編成の各楽器の特性の解説	
3	メジャーキー / 8ビート ミディアム 課題曲A 最初の楽曲は、無理なく音程を意識して演奏できるシンプルなコード進行の楽曲内容のものを扱います。	
4		
5	マイナー・メジャーキー / 8ビート ミディアム 課題曲B ハーモニーの流れが判りやすく、演奏できる楽曲です。ボーカリストとして、少しフレーズを合わせる部分が登場します。	
6		
7		
8	マイナーキー / 8ビート ミディアム&アップテンポ 課題曲C 一部16ビートを感じさせるフレーズが入りますが基本は8ビート。少しテンポ感のある楽曲が導入されていきます。	
9		
10		
11	マイナー・メジャーキー / 8ビート アップテンポ 課題曲D 生演奏をバックに歌うことにも慣れ、そろそろテクニク的なものが要求される時期になってきます。8ビートですが、16分音符の多様される楽曲になってきます。	
12		
13		
14	マイナー・メジャーキー / 8&16ビートアップテンポ 課題曲E 演奏的には、ほぼ16ビートを感じて演奏する楽曲の登場です。ストレートロックだけでは無く、ロック表現ですが、コードの流れ、キメポイント等が多様されていきます。	
15		
16		

授業の方法	
講義・演習・実験・実技(実習)	
授業概要	
アンサンブルを通じて、バンドサウンドにおけるリズム、ハーモニー、メロディーなどのアレンジを体得します。また、ステージ上でのルール、マネー、音響・照明・進行に至るまでの知識を理解していきます。 ＜実務経験のある教員等による授業科目＞	
使用教材:	
後期	
到達目標	
●概要、及び指導内容に準ずる理解力と実践力の達成	
評価方法	
筆記試験・実技試験・実習評価・課題評価・小テスト(その他)	
授業計画	
授業項目	実施内容
1	課題曲アンサンブル指導 メジャーキー / 8及び16ビート スローテンポ 課題曲F ハーモニー進行が、よりスムーズなイメージになり、多少の転調等の工夫がされている楽曲になります。優しいビート感を表現する内容が盛り込まれていますので、ボーカリストとしての声の「いい響き」が要求されます。
2	
3	
4	課題曲アンサンブル指導 メジャーキー / シャッフルビート スローテンポ 課題曲G ロックバラード3連の楽曲が選択されています。シャッフルビート、12ビート等、8ビートとは少し違うアクセント感やリズムのキメ等を勉強します。
5	
6	
7	課題曲アンサンブル指導 マイナーキー / 8ビート ミディアム 課題曲H 8ビート/ミディアム、音数も少なくシンプルですが、リズムに対するメロディの対比感が素晴らしく効果的なアレンジがされている楽曲を体感して貰います。
8	
9	
10	課題曲アンサンブル指導 マイナー・メジャーキー / シャッフル及び8ビート ミディアム 課題曲I マイナーブルースのケーデンスを使用したロックの名曲や1コーラス16小節で独特の世界観をイメージさせる曲等を使って他のジャンルを感じさせます。またアドリブを勉強するためにも優れたナンバー。
11	
12	
13	課題曲アンサンブル指導 メジャーキー / 8及びハーフタイムシャッフル ミディアム 課題曲J 邦楽の名曲を2曲。ソウルフルなビートを使用したものやディズニー的なアレンジの楽曲に触れ、それらのルーツに関心を持ってもらうと音楽感性が広がる。
14	
15	

授業科目		授業時数
音楽理論		62
学年	学科	専攻
1	ミュージシャン学科	ボーカル専攻
担当講師(プロフィール)		
大野 正人 プロミュージシャンとして長年活動している経験から単なる知識の理論だけでなく、歌唱や創作に向けた実践的な活用法を教授		
前期		
到達目標		
<ul style="list-style-type: none"> <li>●基礎楽典の習得。</li> <li>●調合の理解 コードの基礎。</li> <li>●ダイアトニックコードの理解。</li> </ul>		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	<ガイダンス> 音楽を演奏、創作、発展させるために、従来の基準的な音楽のルールを学びます。「音楽理論」の必要性を理解してもらうような授業展開を考えていきます。	
2	ドレミ音階の説明、ドレミとアルファベット 五線紙上に現れる音名を学びます。イタリア/フランスの読み方からスタート、日本・米/英語・ドイツを学びます。米/英語表現のCDEFGABを使用していきます。	
3	五線と音階/楽譜の記号について 実際の五線紙上の音階を学び、その楽曲の規則性を表す音部記号・調性記号・拍子記号等の表現について理解していきます。	
4	音譜のデュレーション 色々な音符の長さを学びます。色々な拍子記号の中で、リズムの変化が表されていますので、音符形式、強弱表現等を確認します。	
5	リズムトレーニング(その1) 8分音符を使った、色々なリズムの形状を覚えます。実際に8分音符や休符が混じったものをトレーニングします。	
6	リズムトレーニング(その2) 8分音符を中心としたシンコペーションを含むリズムを練習します。	
7	音程のレッスン(その1) 五線紙に表現された音程を実際にギターやピアノで弾いて、その音の隔たりが持つ「音程」のイメージを体感していきます。	
8	音程のレッスン(その2) 五線紙に表現された単音をギターやピアノで弾き、3度や5度の音程を自分の声で歌います。その響きや高さのイメージを付けていきます。	
9	コード(その1)3コード 3コード(例:C、F、G7)や、起承転結となるI-IV-V-Iの流れをハーモニーとして理解します。	
10	コード(その2)ダイアトニックコード 調性からの成り立ちとしてダイアトニックコードを説明していきます。	
11	コード(その3)ダイアトニックコードの連鎖 調性内に位置する単純なメロディーに色々なコード付けを考えてみます。これは、与えられたコードを繋ぐことによって楽曲のハーモニーが動いていることを理解してもらいます。	
12	コード(その4)特殊なコード ブルースコードといわれるIV7やトニック7thが持つ独特な響きを理解してもらいます。	
13	スケール(その1)ペンタトニックスケール 機能的な動きを直接与える音を使用せずに配列させることができるペンタトニックスケールを学びます。ダイアトニックペンタトニック	
14	スケール(その2)ペンタトニックスケール 配列上に既にブルース的イメージの音を含む(マイナー)ペンタトニックスケールを理解します。	
15	前期試験 第1週～第14週の内容から出題	
16	答案用紙返却と解説	

授業の方法		
講義 演習・実験・実技・実習		
授業概要		
音楽の基礎理論と譜面の読み方・書き方を学ぶ事により総合的な音楽知識を習得する授業です。また、音感、リズム感などのミュージシャンとして必須の能力を身につけていきます。また音楽の理論を理解する為の下準備としてコード楽器を弾く事を進行させつつ、基本的な理論を指導する。 <実務経験のある教員等による授業科目>		
使用教材:モダンミュージックセオリー/モダンワークブック		
後期		
到達目標		
<ul style="list-style-type: none"> <li>●テンションコードの理解。</li> <li>●コードの転調。</li> <li>●聞き取る能力の習得。</li> </ul>		
評価方法		
筆記試験・実技試験・実習評価(課題評価)・小テスト・その他		
授業計画		
授業項目	実施内容	
1	音程(その1)ソルフェージュ ボカリストとして、ハモる部分でも大切なものです。最初は3度、5度を中心に聴き取りをしていきます。	
2	音程(その2)ソルフェージュ 2週目は、他の音程の聴き取り練習も行います。	
3	コード(その5)度数でアナライズ 例題曲Aのコード進行に対して度数(ディグリー)を記述できるように学んでいきます。	
4	コード(その6)度数でアナライズ 例題曲Bのコード進行を原曲Keyとして、そのKeyの度数(ディグリー)とダイアトニックコードを理解します。	
5	リズムトレーニング(その3) 16分音符の符割を使用したリズムを学んでいきます。	
6	リズムトレーニング(その4) 16分音符に休符や簡単なシンコペーションをいれ込んで練習します。	
7	コード(その6)転調 度数表現のコード進行を、自分が決めたKeyでのコード進行に書き直す作業を行う。また、メロディラインの移調も行ってみる。	
8	コード(その7)tension コード進行に出てくる9度以上のテンションノートについての意味と響きを体感する。今後の参考となるような内容まで。	
9	リズムトレーニング(その5) 3/4拍子や3連(12ビート)に関するリズムのトレーニング	
10	リズムトレーニング(その6) 少し跳ねるビートに関する知識習得や練習を行う。2拍3連、5連(奇数拍)に関するリズムの取り方。	
11	フレーズの聞き取りと採譜(その1) 実際の楽曲の一部を聞き取り、五線紙上に書いてみる。※コピー作業の一部	
12	フレーズの聞き取りと採譜(その2) 実際の楽曲の一部を聞き取り、五線紙上に書いてみる。※コピー作業の一部	
13	テストの出題範囲の打ち出しと復習 音程の響き、リズム譜の読み方、ディグリーによるコード表現または、自分が使用するKeyへの流用方法等を再度確認する。	
14	後期試験 後期第1週～第13週の内容を中心に出題	
15	答案用紙返却と解説	